

資料3

「一斉授業における個別支援の取組」の調査結果 (資料1の質問項目2)【小学校】

国語

回答の処理について
・教科別、学年順に整理をした
・同じような内容は類型化した

No	学年	実 態	支 援 内 容
1	1年	ひらがなの習得にあまり興味をもてず、なかなか定着しにくい。	「うたにあわせて あいうえお」ラミネート加工「あいうえお表」を常時備えておき、すぐに活用できる環境にした。また、“あいうえおカード”を作って、言葉作りやカルタのようなゲーム感覚の活動を多く取り入れたことで、興味・関心を高めることができた。
2	1年	全般的に発達の遅れが見られる。指示されたことを理解できないことが多く、作業を一人で進めることは難しい。学習意欲はある。	単元「すきなもの おしえて」において、友達に聞いたことを清書する活動で、友達に聞くことは話し方を示すようにするとともに必要な単語だけを入れるワークシートを用意した。それを清書するときは、その子のワークシートを例にし、板書とワークシートを合わせて清書用のワークシートに書いていったので、一人でも一部分書くことができた。
3	1年	ひらがなをあいうえお順に書くことはできるが、「う」や「さ」のように文字を指定されて書こうとすると書けない。文章を書くときに、文字が思い浮かばず書けないことが多い。	ひらがなの五十音表を手元に置いて、見ながら書けるように支援した。一斉授業で机間支援をしながら、小まめに声をかけたところ、単語の文を書けるようになった。
4	1年	ひらがな文字は読めるが書くのは時間がかかることが多い。濁音等が付くとほとんど書けなくなってしまう。視写することは困難である。	「濁音、半濁音」を含む物の絵を見て、名前を言ったり書いたりする活動に興味をもって学習することができた。濁音などが抜けたときは、自分で書いたものをゆっくり一字ずつ指でなぞりながら読ませると、間違いに気付き正しく直すことができた。
5	2年	文字を書く、なぞる、絵を描く、は取り組むが算数などは取り組まず、一斉授業の中での参加は難しい。	なぞることが好きなので、漢字ノート、算数ノートに赤鉛筆でうすく描いた文字や数字を本人に、なぞらせるという取組を続けている。
6	2年	計算練習は積極的に取り組むが、漢字や作文には自分から取り組もうとしない。	「おおきなあれ」で、自分なりの詩を考えるときに、詩の内容に合うイラストを描かせたり、ヒントになる擬声語・擬態語を提示したりして文を書かせたところ、イメージを広げユニークな詩を作ることができた。
7	2年	理解力はあるが、文を書くことに苦手意識をもち、「書けない」「分からない」と口にしなが、自分からはなかなか書こうとしない。	作文の書き始めの一文をみんなで考えてから視写をしたり、個別に話を聞いたりしながら書き進めるように助言をし、自信をもたせるような言葉がけを行うことにより、作文をまとめることができた。
8	2年	思考を要するものや自分で判断するのは苦手である。読書は大好き。	「お話れっしゃ」では、読書が好きな長所を生かしたくさんの本を読んだ後、列車の形に切ったワークシートを用意したところ意欲的に喜んで取り組んだ。

9	2年	ひらがなやカタカナの読み書きは概ねできているが、単語として言葉を発することが難しく、文章を理解することができない。	「たんけんしたこと」 作文を書く場面で、探検後、すぐに文章を書くことでイメージをしやすくした。行動した後に、すぐに文を書くので思い出すのも早く、指導者と少しずつ話をする事により、うまく形にはならなかったが数行の文章を書くことができた。
10	2年	集中して学習に取り組むことが難しい。取りかかりが遅かったり、作業終了までに時間がかかったりする。絵を描くことには意欲をもって取り組める。かん黙的で質問に答えることが少なく、返事の「はい」は、注意していれば聞こえる。	ワークシートに読み取ったことを書く。→①机の上に出しておくものといらないものを整理するように指示する。②読むページを口頭で伝えるだけでなく、直接そのページを開いて範囲を知らせる。③一文でもいいので思ったことや分かったことを書くように話す。④少しでも書いていたらほめ、その内容について最後まで(又は長く)書けるように助言する。
11	3年	言葉に対する興味関心が薄く、文章を読んだり書いたりするのが苦手である。	「おもしろい物見つけた」 紹介したい物を休み時間に校庭をまわって一緒に見つけた。観点別に記入するメモを用意し、指導者と会話しながら記入するように支援すると作文を書くことができた。
12	3年	言葉の発音がはっきりしないところがある。理解力が全科目において劣っている。リズム感に乏しく、転びやすい。皆と一緒に行動しようとする意欲がある。	「声の大きさ、話す速さ」 首から下げる大きな名札を作り、役割演技を行った。実際に練習し友達の演技を見ることによって、声の大きさ、話す速さを工夫して発表することができた。
13	4年	文字が正しく書けない。まずに入らない。	大きいますの漢字帳を使う。漢字の書く方向を矢印でつける。
14	4年	算数の計算はよくでき意欲が感じられるが、国語については基本的な読み書きが不足しているため、授業に対してのやる気が感じられない。	作文の学習は、取り出し指導で行い、教師と十分話をしてから書くようにしたことによって、全く書こうとしなかった児童が、原稿用紙2枚程度の文を綴ることができた。
15	4年	漢字の習得及び音読などで、言葉をまとまりとしてとらえて読むことが苦手である。	字を丁寧に書くときれいな字なので、ほめて丁寧に漢字練習をするようにしたところ、字形が整い、漢字の習得率が少しずつ上がってきた。宿題も、行の一番上に漢字を正しく書いてあげたり、一日に学習する量を他の児童より減らしたりして、飽きさせない工夫をしている。
16	4年	文章を読み取ることが苦手であり、漢字練習に意欲的に取り組むことができない。	音読に力を入れて取り組んだ。スラスラ読めるまで区切って練習をし、読めるようになったら内容の読み取りへと進んだ。キーワードを探し、その前後をしっかりと読んで内容を把握させるようにしたこと、問いに答えることができた。
17	6年	筋道を立てて考えたり、文章にまとめたりすることが好きではなく、苦手なものにはなかなか取り組もうとしない。	作文を書き始める前に個別に対話しながら、カードにメモをする形で、構成を全部一緒に考えてから一人で書かせるようにしたところ、最後まで書くことができた。

算 数

No	学年	実 態	支 援 内 容
18	2年	多動傾向がある。何か気になるとこだわり、集中して授業に取り組めないことが多い。漢字の読み書きが定着しない。計算は指を使うと分かり、くり上がり、くり下がりが少しずつ分かってきた。文章題は、文章の内容を読み取ることができないため、解くことが難しい。	「たし算の筆算」「ひき算の筆算」では、くり上がり、くり下がりのある筆算の仕方を理解しやすくするために、位取り板とブロックを用意した。10のまとまり、100のまとまりを意識しながら、計算することができた。筆算の練習では、補助的に「1」、「⑩」等のメモを必ず書く習慣をつけたところ、少しずつ筆算ができるようになってきた。
19	4年	かけ算九九が定着していないため、わり算に取り組めず学習に意欲が持てない	100ます計算に取り組ませ、徐々にスピードアップしたり正当率が向上したりすることによって自信につながり、今までとは違った前向きな学習態度となった。
20	4年	学習全般に対して意欲的に取り組めず、ぼーっとしていることが多い。ノートやプリントには、板書したものを写したり、友達の発言を書いたりするが、自分の考えを書くことがない。特に、考えて書くこと、発言することが苦手である。計算や漢字などの宿題は忘れることなくやってくるが、半分以上間違っていることが多い。	わり算の筆算の仕方の指導では、実際の折り紙を分けさせた。位ごとに分けて筆算に書くことを繰り返したところ、大きい位から分けていくことができた。文章にまとめることはできなかったが、筆算の仕方はよく覚え、指導後2か月後も定着している。
21	5年	文字を書くこと(漢字練習、作文を書くこと)は好きである。算数の苦手分野や図工、家庭科の製作活動では、途中で飽きてしまい自分勝手なことをしている。	「少数のかけ算とわり算」 ノートに赤鉛筆で正しい筆算の仕方を薄く書いてなぞらせると、その後の問題も「自分でできる、やってみる」と、やる気を出して取り組み始めた。
22	5年	学習に集中できない。作業に取り組もうとしないことなどがあるが、興味の向くことには意欲的に活動できる。	板書を写すことが苦手なので、算数において、板書の大切なところだけを書き込めるプリントを渡しておいて、授業を進めることで、集中して学習できることもあった。
23	6年	一回の指示に二つ以上の内容が入ると、「先生、どうすればいいんですか」と質問する。ワーキングメモリーが一つのことに集中してしまう。	「教科書〇〇ページを出して、1を読みます」という指示でなく、「教科書を出しましょう」「〇〇ページを開きましょう」「1を読みます」と、一つ一つ指示を出すようにした。また、スマートボードを使って、教科書を提示することで、皆と同じように活動することができるようになった。
24	6年	理解力はあるが、集中力がなく、一つのことに継続して取り組めない。自分の興味のあることは反応がよく、取り組みもよいが、興味のないものの学習では他のことを考えていることが多い。	算数は興味が低く、意欲を示さないが、立体の展開図の学習では、展開図は一つの立体で何通りかあることを説明し、実際に展開図を作る学習では、児童の作った展開図を黒板に貼ったところ、自分の作品も貼りたいと一所懸命取り組み、展開図を描くことができた。

そ の 他

No	学年	教科	実 態	支 援 内 容
25	4年	社会	自分で興味をもてるとすごく集中して取り組むが、自分の中で区切りがつくまで止めない。興味・関心をもてないとき、苦手意識が強いとき、なかなか学習・作業に取り組めないことがある。漢字は得意である。	ごみ処理調べ、県名調べ等に興味をもち、自主勉強をしてきたり進んで図書を探してきたりしたときに、その意欲をほめて授業の中で紹介した。板書を書き写すのを嫌がることが多いが、図・絵・地図を取り入れてノートにまとめるように指示すると、教科書の資料・地図を活用して熱心に学習できた。
26	5年	社会	気分にもうがあるため、授業中の集中力にも差がある。ノートの文字や使い方も雑になりがちである。作業を伴う学習など、意欲的に取り組むが、すぐに飽きてしまい仕上げなどは雑になってしまうことが多い。	「わたしたちの住む日本」 日本の地形、川の学習において、地図帳を活用して学習を進めていくワークシートを作成し、取り組ませたことにより、児童は集中力を持続させながら意欲的に取り組むことができた。
27	4年	図工	絵や図など、頭の中に思い浮かべたことを描くことがなかなかできない。見えるものであれば何とか描くことができる。	指導者と話し合って「海の中の絵にしたい」「海の中には昆布がある。魚がいる。」と言うことができ、指導者が手伝って下絵を描いたり折り紙で切り取り配置したりしてやるとできた。
28	1年	生活	一対一対応であると、学習への取り組みはよくなるが、一斉授業の中では取組が悪くなってしまう。	「あさがおをそだてよう」色鉛筆を使うのが好きなので“見つけたよ！カード”の表現を絵を描くことから取りかかるようにして、後から文を書くというやり方で進めたところ、あさがおの観察から気付きを表現することがスムーズに行えたことがあった。
29	2年	生活	知識が豊富で理解力があるが、課題に対してなかなか取り組み始められない。そのまま集中できないと、終わらず家で仕上げてくることになってしまう。	ミニトマトの観察では、その前後の活動の流れを板書し、それに使える時間を掲示用の時計で提示したところ、時間内で自ら取り組み始めることができた。
30	4年	総合	集中力がなく、すぐに飽きてしまい、学習がなかなか進まない。計算問題や漢字練習が苦手。私語、手悪さが多い。	「上下水道を調べよう」で、調べる、まとめる、発表する、のそれぞれの段階で、しっかりと自分の役割を認識させて、グループ学習に取り組ませたところ、普段より意欲をもって取り組んでいた。
31	5年	体育	授業中、授業とは関係のないものに注意がいてしまい、集中できないことが多い。また、授業中に寝てしまうこともある。	目標を本児のレベルに合わせて設定した。友達同士で励まし合う場面、学び合う場面を取り入れた結果、体育の授業で跳び箱の開脚跳び三段を跳ぶことができた。
32	1年		こだわりが強く、マンツーマンの指示が通らないことがある。	一単位時間の授業を、一コマ15分位の単位で構成した。時計を示して、「長い針〇つまで。一つ目〇〇。二つ目〇〇。三つ目〇〇するよ。」と伝えてから始めた。周囲の友達や集団を賞賛しよいモデルを明確にすることで、自ら気付き行動を変えることができるように支援した。

33	1年	アスペルガー症候群の診断を受けている。優しい性格なので友達と比較的なじんで生活できているが、身の周りの整頓が苦手ですべてにおいてゆっくりである。授業への集中が難しい面があり、運筆がぎこちなく、運動も苦手である。	ひらがなの50音表を机に張って、すぐにひらがなを確かめられるようにしたり、視写の際、1行分が見られるように厚紙をくり抜いたカードを、本文の上に置いて見られるようにしたりしたことで、混乱を最低限にして学習に取り組ませることができた。
34	1年	広汎性発達障害のため、指示を待たずに先に作業してしまったり、指名されないと怒って声を出したりすることがある。また、文字をたくさん書くことを嫌がり、視写をするのに抵抗がある場合があるが、やる気になればどんどん取り組むことができる。	本児ばかりを指名できない理由を、落ち着いているときに説明した。そして、不平を言わずに待てたときには、ほめたり指名の機会を与えたりして、プラスの体験ができるようにしたところ、待てるようになってきた。視写については、様子に応じて範囲を少なくしたり、写すところを指で示して支援したり、少し時間を置いてから取り組ませるなどしたところ、できるようになってきた。
35	1年	ひらがなの読み書きが十分にできない。音読はゆっくりであるが一文字ずつ読むことができる。テストやプリントなどの問題文は、時間をかければ自力で読むことはできるが、意味を理解するところまではいかない。	一番前や真ん中の列など、机間指導がしやすい子どもにとって視覚刺激が少ない位置に席を配慮している。ひらがなを書く学習では、見本となるプリントを準備し、絵の模写のように字を書く練習に取り組ませた。また、マーカーペンの上をなぞり書きしたり、字を書くマスをも4つの部屋に分けて、位置関係を確認しながら書いたりする練習をした。音読では、読んでいるところに指を置き、指で追いながら読む練習をさせた。
36	2年	指示を最後まで聞かずに、気になる言葉が耳に入ると思いついたことをすぐ発言してしまう。待っていることが苦手である。	体験的活動に入る際、手順を①～③と順序立て簡潔に板書した。一つに活動を終えるごとに、次を確認して進めることを楽しんでいった。図工の工作では、基本の形を作る際、教師と確認し合いながら、一つ一つ段階を追って進めた。順序立てて行動するよう習慣付けるうちに、待てるようになってきた。
37	5年	着席していることはできるが、自分から何もしようとしないことが多い。文章は書けないが紙やノートにキャラクターの絵を描いていることがある。単純な計算はできる。	「〇〇君の今日のこの授業の目標は、△△ができることだよ」と毎回指導者が声に出して確認することは、本人の学習内容や到達目標が、指導者・本人に分かりやすくなるだけでなく、周囲の児童にも伝えることになる。それは、周囲の児童が「〇〇君は、なんで全部しないんだよ～」という批判につながるものが少なくなり、また、周囲の児童も手助けする前向きな姿勢につながっている。
38	5年	漢字を覚える、都道府県名を覚えることなどに抵抗があり、意欲が持続しない。心療内科に通院し、薬を服用しているが、飲み忘れ等で学習意欲が極端に低下することがある。	都道府県名を覚える学習では、カルタ遊びを取り入れてゲーム感覚で覚えられるよう支援し、興味をもって取り組むことができた。漢字は、一度にたくさん覚えるようにしないで1日1字、2字のように区切って指導している。
39	6年	一回の指示に二つ以上の内容が入ると、「先生、どうすればいいんですか」と質問する。ワーキングメモリーが一つのことに集中してしまう。	「教科書〇〇ページを出して、1を読みます」という指示でなく、「教科書を出しましょう」「〇〇ページを開きましょう」「1を読みます」と、一つ一つ指示を出すようにした。また、スマートボードを使って、教科書を提示することで、皆と同じように活動することができるようになった。

「一斉授業における個別支援の取組」の調査結果 (資料1の質問項目2)【中学校】

教科

回答の処理について

- ・教科別、学年順に整理をした
- ・同じような内容は類型化した

No	学年	教科	実 態	支 援 内 容
1	1年	英語	簡単な計算などはできるが、英語の単語やコミュニケーションすることは難しい。	質問の内容が分かりやすいように工夫したり、写真や絵などの具体的なものをあげ理解しやすくしている。
2	3年	英語	板書を写すときは時間がかかる。英語の発音をするときには、一語ずつ区切ったりそばについていたりして指導するとできるようになる。	基本文の定着を図るためにイラストを用いている。数種類のイラストを見ながら何度も基本文を言うことで習得できる時間が短くなっている。ワークシートにもイラストを取り入れることで、スムーズに英文を完成することができる。
3	3年	英語	興味あることはとても詳しく、深いところまで自ら進んで本を読んだりインターネットを使用したりして調べることができる。興味のないことは聞く耳を持たず、授業中も他のことをやっていることが多い。	ドイツの写真や3Rsの取り組みについては視覚的な理解を促した。環境問題について興味をもっていることもあり、班ごとに「私たちができる取り組みを英文で書こう」という活動の際、様々なアイデアを友達と共有することができた。対象児のアイデアを、仲間が英語で表現する中で協力して学ぶ姿が見られた。
4	3年	英語	英語の読みは取り組むが、内容の理解については不十分である。ゲーム等には関心を示すが文法的事項については意欲を示さないことが多い。	教科書に出ている本文の単語にカタカナをふって、その単語に近い発音ができるような手だてをしたところ、読みの練習に取り組めるようになった。意図的に机間指導を繰り返し個別の支援を行っている。
5	1年	国語	持続力がなく同じ姿勢で座っていられない。文字はなかなか形が整わず、文を句点で区切ることが難しい。ノートは2～3行書くと次の次のページからまた思いついたように書き始める。	何度か同じような流れを経験すると要領が分かってくる。楷書で丁寧に書かないと点数にならないのでマスの中にきちんと書く意識ができるようになり、字の形も整ってきた。
6	1年	数学	思ったことをそのまま口に出すことが多いので周囲をかきまわす様子が見られる。英単語・計算など繰り返し行っても、なかなか定着までには至らない。自分の考えを相手に伝えることが難しい。	「正の数 負の数」の導入では、ぬいぐるみを使って集中力を引き出すことができた。TTを活用し1対1の対応ができたときは、計算方法をマスターすることができた。
7	3年	数学	授業中に集中していないことが多く見られ、課題になかなか取り組めず基礎的な学習内容の定着が図られていない。指示の内容がのみこめず課題が始められない。できないことを周囲に隠そうとすることもある。	因数分解・正負の数の計算を用いずに、取り組めるような問題を要して個別指導を行った。スモールステップをふみながら個別学習を行ったことで意欲が長続した。

そ の 他

No	学年	実 態	支 援 内 容
8	1年	板書を写したり質問に答えたりすることが難しい。小学校の漢字も正確に読むことが難しい。生徒同士の学び合いの時間では、自席から動かず友達と会をしようとする姿勢が見られない。	問題を声に出して読んでやったり、問題を分かりやすい言葉で補足したりする。類似問題に取り組みせられたらほめるようにしている。
9	1年	暗記や計算、漢字練習のような反復練習はコツコツと取り組むが、想像したり考えたりすることが苦手である。	色々な選択肢を与えてその中から選ばせようとするので発想できるようになった。
10	1年	勝ち負けにこだわり、負けてしまうと大泣きをしてしまう。被害意識が強く、マイナス思考である。テンションの高いとき低いときの差が大きい。電車が好きで電車の知識は豊富である。	負けたときにどうやったら勝てるかというアドバイスをしたり繰り返し同じゲームをしたりすることにより、ペースに慣れ勝てるようになった。次のゲームや授業に意欲的に取り組めるようになっている。
11	2年	基礎的な知識が不足しているため、皆と同じ問題には取り組みなかつたりする。板書を写すことに時間がかかる。	黒板を写すのが困難なときは、予めワークシートに書いたものを個人的に見せて書かせている。
12	2年	話を聞いたり指示を理解したりすることがなかなか難しい。	ワークシートを工夫し、スモールステップの学習で教師がその都度チェックする方法を取り入れた。4グループで学び合い学習を取り入れ助け合えるようにした。
13	2年	考えをまとめて文章にする作業が苦手、スムーズに取り組むことが難しい。	興味のある課題は率先して取り組み意欲が見られるので、その場面では徹底的にほめて自信をつけさせるようにしている。クラスの仲間にもその頑張りを伝え認めさせるように雰囲気をつくった。
14	3年	集中して授業に取り組むが理解に時間がかかり、既習事項がなかなか定着しない。	机間指導で個別支援を行う。意図的に学習サポート役の生徒を近くの席にして学び合いがしやすい環境をつくる。
15	3年	やる気はあるが理解に時間がかかる	前時の内容や既習事項に関する補助教材を多数用意し、その中から最も適切なものを選び復習を行う。